

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520582

研究課題名（和文） 芸備地域における古代山陽道の歴史考古学的研究

研究課題名（英文） Historical Archaeological Study on the Ancient Sanyodo  
in Geibi area (The East of the Hiroshima Prefecture)

研究代表者

西別府 元日 (NISHIBEPPU MOTOKA)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：50136769

研究成果の概要（和文）：

古代日本の中央政府は、地方との行政上ならびに軍事上の連携をつよめ、かつ納税の便宜をはかるために、平城宮と国府を結ぶ官制の道路に駅を置く制度（駅制）を確立した。古代山陽道は、そのうちのひとつである。本研究の課題は、歴史考古学的手法と資料による古代山陽道研究の確立と道路痕跡を確認することである。地籍図や空中写真、古絵図などの調査から、経路を推定し、その後に発掘調査を実施して、道路痕跡と考古学的遺物を検出した。

研究成果の概要（英文）：

In Ancient Japan, the Dajokan (central government) established the Ekisei, network of post stations on the public roads connecting the Heijogu (capital of Ancient Japan) and Kokuhu (provincial seats of government), in order to strengthen administrative and military communications with the provinces, and to facilitate the payment of taxes. Ekisei was made up of seven public roads; Ancient Sanyodo was one of them. The Aim of this Research project, is a lay the foundation of the study on the Sanyodo, and excavate the vestigate of Sanyodo, by Historical Archaeological evidence and method. First, we investigated into the air photographs, the cadastres and pictures of village and road. Shortly after that, Presumed the route of Ancient Sanyodo. Finally, we excavated the spot on route; discover the vestige of road and Archaeological records.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：古代山陽道、駅家、地籍図、看度駅、須恵器

## 1. 研究開始当初の背景

日本歴史の実相を明らかにするために、地域史像の構築が不可欠であることが提唱され、古代史研究においてもその視角が受

容され、木簡・墨書土器等の利用によって、豊かな地域史像が描かれる地域もふえていく。このような地域史像の集積のうえで日本列島の歴史像の再構築が期待されるが、

このような動きは普遍化できておらず、各地域の歴史の実像に接近する研究上の試みは意外と希薄である。その大きな原因の一つは、諸地域における古代的風景の具体像がみえていないことであろうと考えている。古代的風景という場合、地形・植生・動物相を基軸にした自然環境的分析も重要であるが、歴史学の場合は、人間の社会的関係形成の触媒とでもある人・物の流れを体現する交通路の分析が不可欠であると考え、古代律令国家のもとで敷設された駅路（官道）である山陽道、とくにその西部地域の経路を、歴史地理学・歴史考古学的手法にもとづいて組織的・計画的に研究する必要があると考えている。

古代山陽道は、対外政策の要である大宰府と都とをむすぶ官道であり、唯一の大路であった。それゆえに山陽道の維持は、国家的な最重要課題であったと考えられる。たとえば、9世紀初頭に、政府が再三にわたって山陽道維持についての諸政策を立案していることは、国家にとって山陽道のもつ交通政策、ひいては国家情報伝達体系上での意義を端的に表現したものといえよう。こうした性格をもつ官道の経路を解明することは、当該地域（山陽道西部）の交通・流通体系さらには政治的意志伝達体系などを明らかにするのみならず、日本古代の交通体系、交通政策を考えるうえでも不可欠の前提といえる。さらには山陽道の継続性から考えれば、中世から近世、さらには近代における交通経路の根底を明らかにする意味があるといえよう。とりわけ近年は、歴史認識に具体性をもたせることが重要と考えられるようになってきているが、古代以来近世まで歴史上の様々な旅の舞台となった古代山陽道を明らかにすることは、歴史学・考古学・地理学の研究のみならず生活の基本である道を通して国民の歴史的、社会的、地理的認識を豊かにするうえでも、意義あるものと考えている。とりわけ近年は国民のあいだに車社会への違和感から、歩道・遊歩道の整備を求める声がかま一方、各種の大規模開発によって従来の道路が寸断され、先人たちがたどった道筋もあいまいとなりつつあることが危惧されている。また歴史教育などの分野では、体験的かつ共感をバネにした歴史認識の形成が提唱され、道路や峠などはその有益な教材となっている。昭和53年以来の文化庁による「歴史の道」調査・整備事業も、こうした道路への国民的関心のたかまりに応じたものである。さらにその後旧建設省（現国土交通省）による歴史街道の指定がおこなわれ、平成19年には国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所によって古代西海道の検証がおこ

なわれるなど、歴史的な道路への関心はいっそう増大している状況であった。「地域」の時代の確立にむけて、歴史的な道路の調査・整備は急務であったといえよう。古代道路の復元的な研究は、こうした要望にこたえる現実的・実態的な基盤とそのための方法論を模索し提供しようとしたものでもある。

このような、古代交通研究の全国的状況と国民的要望のたかまりにたいし、広島県は教育委員会が「歴史の道」調査事業に参加せず、そのため一部を除いては、古代官道研究の発展の流れを主体的に継受する研究者・文化財調査担当者が養成されず、研究状況は1970年代の段階にとどまっていた。

## 2. 研究の目的

前項に記したような研究状況を改善し、古代山陽道の研究を進展させるために、科研開始にあたってたてた目標・目的は下記のとおりである。

最終目標は、立ち遅れの状況にある広島県における古代山陽道研究を、全国的レベルに引きあげること、そのためにはつぎのような目的を実現することをめざした。目的の第(1)は、広島県地域における古代山陽道の想定経路の確認ということである。広島県地域の古代山陽道に関しては、従来の駅家名を現地名に比定して、経路を推定するという1970年代以前の研究方法にもとづいて、備後国におかれた「者度」駅を広島県世羅郡宇津戸に比定する説が根強く提起されてきた。このため、不自然なほど山間部に経路を想定する説が有力視されてきた。この説を、徹底して吟味し、その当否について判断することを小目的の①として設定した。また、このような駅家地名に依存した研究ではなく、空中写真・地籍図や近世地誌書などを利用して、明確な地割りなど道路痕跡に注目する、現在の研究視角を意識的にとりいれることを小目的の②とした。小目的①②が達成されれば、おのずから第(1)の目的は達成できるのである。

このような歴史地理学的研究手法にもとづいて経路を想定したうえで、第(2)の考古学的手法によって道路状遺構を確認するという大目的を設定した。この大目的を実現するため、推定した経路にあたる地域を徹底的にフィールド調査をすることを小目的③として設定、この踏査によって道路状遺構が確認できると考えられる地点を何カ所か特定していくことを小目的④とし、こうして選定したいくつかの地点のなかで、土地利用の現状や地権者との関係その他から最も適切な地点の発掘調査を実施することを小目的の⑤とし、発掘調査の結果、遺構・遺物を検

出して古代山陽道の遺構を確認することを小目的の⑥として設定した。この小目的⑥の段階で一定の調査成果があがれば、第(2)の目的達成ということになる。

### 3. 研究の方法

研究目的にそいながら、研究方法を整理すれば、以下のようにまとめられる。いわば歴史地理学的な視点からの古代山陽道にアプローチするための目的①目的②に関しては、70年代以降の古代交通研究の成果をとりいれるとともに、広島県地域における研究状況の把握に努めた。この点は、科研研究開始時以前から心がけていたことであり、古代交通研究会会長の木下良氏や木本雅康氏など、現在研究の第一線で活躍している研究者にも、活字化される以前の古代道路調査事業などについての情報をいただきながら、全国的な研究状況の把握につとめた。そのなかには、目的④⑤に関して、比較的な研究のうえで現地調査・検討が必要な古代官道推定地も浮上してきたので、その踏査のため、現地の研究者とも連絡をとり、その案内で調査を実施した。

一方、目的②に関しては、従来の古代官道で明確になってきた関連地名と直線的道路状痕跡の検出につとめた。そのため推定山陽道周辺市町村の小字コード表や、中世・近世の歴史史料など文献資料の博捜につとめるとともに、空中写真による確認作業、古地図・地籍図の閲覧などによって、字界・町村界や道路状痕跡などを検出する作業をおこなった。とりわけ地籍図での地割り・道路等の確認に関しては、広島法務局の各支所に赴いて地籍図の閲覧につとめたが、各法務局支所では、土地情報の電子化作業がおこなわれており、業者への地籍図の長期貸し出しや、突然の貸し出しなどにより、計画どおりに閲覧がすすまなかった。そのため大目的の(2)にあたる経路の想定や踏査など小目的③④の遂行に若干の支障が生じた。他方、古代官道についての考古学的調査の全国的な状況やその内容の把握も、各地の文化財調査報告書などの閲覧や調査地の踏査などによって同時並行的にすすめていたが、この点については順調に遂行することができた。

当初の計画からみれば若干の遅延はあったが第2年目の後半には目的③の成果をふまえて小目的④を遂行し、候補地を精査しながら、討議をかさね調査対象地の絞り込みをおこなった。その結果、調査対象地を、広島県三原市八幡町大字垣内字トントンに絞り込み、地権者への依頼と細部の交渉をおこない、勤務校の大学院生の協力のもと、小目的の⑤を遂行することができた。

### 4. 研究成果

今回の補助をうけた研究の開始にあたって設定したふたつの大目的については、『トントン古道跡』という報告書にまとめたごとく、ほぼ達成することができたと考える。すなわち、古代山陽道が御調川流域を遡上するように設定されていたことを、文献学的にも、フィールド調査の面からもほぼ明らかにしえたこと、しかも、その経路上の一地点において、発掘調査を実施し、丘陵上であるにもかかわらず幅1.5mの側溝をともなう9m幅の道路状窪地が約50mにわたって確認できたこと、さらにはその地山面から8世紀後半の須恵器片を検出しえたことによって、ほぼ達成しえたと考える。

この報告書『トントン古道跡』を全国の古代官道の研究者に送付したが、おおむね肯定的な評価をうけている。とりわけ、調査が、大規模開発などいわば偶然にたよってなされてきたこれまでの古代道路の調査事業となり、組織的計画的な交通路に関する歴史的研究を展開し、さらに考古学的調査に継続・発展させるという、組織性・計画性・系統性の面からみても全国的にも珍しい古代道路研究であったことが注目されている。こうした一連の研究過程を、へることによって交通路研究の方法論的・組織論的手法の一例を、しめしえたと考えている。しかも、調査事例が、山間部であったことなどから、独自性をもつものとして評価されている。

以上のような目的の達成にいたる過程で、報告書以外の地についても、おおかたの経路を確定することができた。その結果、古代山陽道と近世の西国街道(近世山陽道)とは、旧備後国地域では、その経路はおおきく変更されているが、旧安芸国地域では広島湾頭周辺をのぞくと、おおむね古代山陽道が近世西国街道に踏襲されている可能性がたかいこと、地名や文献さらには地割りなどの面で近世山陽道沿いに古代山陽道の痕跡と考える事例が存在することが確認された。

また、立ち遅れの状況にある広島県における古代山陽道研究を、全国的レベルに引きあげるといふ大目標についても、一定の成果をあげたのではないかと考える。それは研究の手法というよりもむしろ、人材の開発という点から確認できるのではないかと考える。県内の埋蔵文化財調査に従事する研究者のなかから、古代山陽道についての論文を執筆する研究者が登場したこと、また埋蔵文化財の調査時に古代山陽道のみならず「道路」という視角が意識してもらえようになったこと、さらには若い研究者が育ちつつあることなどがあげられよう。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

- ①西別府元日, 宇佐神宮と地域社会, 史学研究 271号, 査読有, 2011年刊, 1-21頁
- ②西別府元日, 備後国府の出土文字資料, 地域アカデミー2009 公開講座報告書、査読無, 2010年刊, 13-36頁
- ③西別府元日, 安那・品治の駅と古代のくらし, 地域アカデミー2008 公開講座報告書、査読無, 2009年刊, 17-32頁

〔学会発表〕(計1件)

- ①西別府元日, 備後国「者度(看度)駅」について, 中国四国歴史学地理学協会研究大会, 2010年6月27日, 福山大学宮地茂記念館(広島県福山市)

〔図書〕(計2件)

- ①西別府元日, 広島大学文学研究科, トントン古道跡, 2011年刊, 27頁
- ②岸田裕之・西別府元日・勝部真人・中山富広・脇坂充彦・藤川誠, 山川出版社, 広島県の歴史散歩, 2009年刊, 336頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西別府 元日 (NISHIBEPPU MOTOKA)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 50136769

### (2) 研究分担者

古瀬 清秀 (FURUSE KIYOHIDE)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 70136018

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号:

### (4) 研究協力者

津田 真琴 (TSUDA MAKOTO)  
広島大学・大学院文学研究科・博士課程  
前期在学中  
研究者番号: